

なんたんリハビリ通信 2020.12

リハビリテーション科の感染予防対策について

リハビリテーション科部長 林田 達郎



新型コロナウイルスが中国で初めに確認されてから、2020年12月で1年を迎えました。12月14日に感染者数は世界全体で累計7000万人を超え、死者は160万人に達しました。日本国内では感染者数が累計17万人を超え、未だに終息の兆しが見えない状況が続いています。

当科では、従来からリハビリを行う前にはその都度、療法士の手指消毒やリハビリベッド、機器の消毒を徹底して行うなどの感染対策を行ってまいりました。さらに7月に当院で新型コロナウイルス感染者が発生してからは、院内感染対策室と連携して感染予防を一層強化しております。

具体的には、療法士は各病棟ごとに担当を固定してリハビリを実施しています。それにより他病棟の患者さんや外来患者さんとの接触を回避しています。また入院患者さんのご面会や入院中の外出は原則禁止にしています。さらに現在、外来通院でのリハビリテーションは規模を縮小して実施しています。

患者さんにご家族の方には何かとご不便をお掛け致しますが、ひとたび院内感染が起きれば医療提供体制が崩れますので、ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

今後も安心してリハビリテーションを受けていただけるように、スタッフ一同、感染予防に努めてまいります。これから冬の寒さも本番となりますが、新型コロナウイルスの早期終息と住民のみなさまはくれぐれも体調を崩されませぬようお祈り申し上げます。

地域リハビリテーション支援センター事業について

当院では地域リハビリテーション支援センターコーディネート事業の一環として、関連職種との連携会議や看護職・介護職・福祉関係の職業に携わっている方を対象に研修会を行っております。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面での会議や研修会の開催が難しい状況であり、新たな取り組みとしてウェブツールを使用したオンラインでの会議や研修会の開催を行っています。今後も他職種の皆様と情報共有し、地域リハビリテーション推進の一助となるように活動していきます。

全身振動刺激機器「ウェレンギヤング®」の紹介

当科では2020年10月に「wellengang®(ウェレンギヤング)」を導入しました。この機器はドイツで開発された全身振動刺激機器です。ドイツ語で「wellen」は「波」、「gang」は「歩く」を意味し、この機器の振動の様子を表現しています。

振動する台の上で運動はもちろん、立っているだけでも筋肉を使うことができます。「緊張性振動反射」という、筋肉の状態を感知するセンサー「筋紡錘」が、振動で筋肉が伸ばされたことを感知し、神経・脊髄を介してその伸ばされた筋肉を縮めようとする反射を利用しています。

10Hz(1秒間に10回の振動)で1分間立つことができれば、1200歩の歩行と同等の効果があるとされています。振動数は1~20Hzで調整でき、目安として1~7Hzがバランス感覚のトレーニング、8~12Hzがリラクゼーションや弱めの筋肉トレーニング、13~20Hzがやや強い筋肉トレーニングとなっています。

当院ではスポーツ障害に対し、リラクゼーションや筋力トレーニングを目的として活用しています。



スタッフふるさと紹介



作業療法士の真継です。私の住む亀岡市には出雲大神宮という神社があります。七五三詣の時期には様々な地域から、たくさんの方たちが参拝され、子供が無事に成長した事を大神様に感謝し、さらなるご加護を祈念します。その他に縁結びの神様として有名で、恋愛のみならず良縁を結ぶとされています。春は新緑・秋は紅葉と一年中楽しめますのでぜひ一度、訪れてみてください。

作業療法士の岩内です。南丹市には、るり溪という場所があります。大堰川の支流「園部川」が流れる全長4kmの溪谷で、上部の通天湖から流れる清流が瑠璃色の輝石のようにみえたことに由来します。国の名勝・府立自然公園に指定され、日本の音風景100選にも選ばれました。付近には温泉施設や娯楽施設があり、話題のグランピングやイルミネーションなど春夏秋冬を通して楽しめます。ぜひ一度訪れてみてください。

